

2006-秋号

瓦版 No.24



いつもありがとうございます。  
心から感謝いたします。  
桑原 敏広  
桑原 浩子

～ 秋の気配 ～

柿喰えば鐘が鳴るなり法隆寺。あの暑かった夏が嘘のように  
過ぎ去り、季節はいつの間にか秋の気配を帯びてきました。  
一面の田んぼが黄金色に染まり、実りの秋の到来を宣言している  
かのようです。日本の四季ははつきりしていて、感動し入っていますね。  
日本人に生まれて本当に良かった・・・と思います。  
暑すぎず、寒すぎずのこの時期、夏の疲れた体を大の字にして  
畳に寝ころんでみると、何とも言えない心地よさを覚えます。

柏崎の名所“お滝様”に行ってきました

8月初めのある日、お友達と一緒にリュックサックを背負って  
“お滝様”を目指しました。20分程歩いたでしょうか、きれいに  
整備された川公園のような所に着いて、階段を少しずつ上り  
上がって行ったら、今の今まで知らなかった“お滝様”が現れ、うお  
という感じてした。高さ40～50m位の滝が、白い水しぶきを上  
げて豪快に落ちていました。ゴツゴツした岩肌につかかった水が  
織りなす天然のシャワーという感じてした。いつもの年は水が少し  
で、細いらしいのですが、今夏は水量が豊富で勇ましいとのこと。  
お友達の後について滝壺の淵まで行ってしゃがんでみたら、下から風  
が吹き上げて、何とも言えない心地よさでした。さきまでの暑さが  
嘘のよう・・・その石に腰掛けていた自家製のトマトとおやつ  
のおいしかったこと。最初は滝壺が深かったら怖いかし、と思ってい  
ましたが、ビックリするくらい浅かった・・・

私達がそこにいる間、カメラを持った男の人が何人か来られて滝  
を写して行かれました。お盆の頃は帰省客さんが訪れるのだそ  
うです。こんな素敵な場所を案内していただき、感謝しています。  
この秋、もう一度一緒に行ってみたいと思っています。

まいと

おおこ

大阪満喫の旅

ほんまに

せやな～

当初、大阪経由で高野山宿坊の旅となる予定で（たが、列車に乗って  
いる時間がトータルで8時間は、ちょっとキツイということで、今回は高野  
山をあきらめました。大阪のお友達から案内していただき、生まれて初  
めての大阪の街を楽しみました。水上バスで夜のとはりの下りた淀川  
を遊覧し、大都会にも癒やしの空間があることにホッとしました。秀吉  
が築いた大阪城を遠目に見ることでしました。1日目の夜に、グリコ  
のネオンで有名な道頓堀にあるお好み焼き屋さんで創作料理を  
ご馳走になり、2日目には今年50周年になる通天閣にのぼりま  
みしました。この日はお友達の家に泊めていただき（堺市堺区）、カウ  
オケ喫茶にも連れて行ってもらいました。堺の大銭湯“祥福の湯”に  
も入ってみました。3日目、帰る日、駅へ向かう途中、大阪の新名所  
梅田スカイビルの空中庭園展望を楽しんできました。アツという間の  
大阪でした。今度（は、もう）2時間先の和歌山の高野山宿坊を目指します。

秋の夜長、読書でもすればよいのだろうか、何かよい映画というか、感動  
するような映画を観てみたい、と思う。先日息子が「男たちのヤマト」  
というDVDを借りてきて観ている。うちの男達は洋画が大好きで  
戦争映画も好き。この映画は邦画だが、とても人気が高かったら  
しい。私は戦争映画は嫌いなのだが、この「ヤマト」は違った。  
脇で観ていた息子が泣いている。私も泣けてきた。自分達は、な  
んて幸せな時代に生かされているのかと改めて思い知らされた。  
尊い命、尊い人生、尊い青春をすべて捧げ、死んでいく若者達。  
戦争って一体何だったのだろうか・・・この思いがずっと心に残って離  
れない。それと同時に、好きと好きさることに関わらず、戦争行きを余儀  
なくされた方々の犠牲の上に自分達がいることを決して忘れては  
いけないと強く思った。生きてくても生きられなかった人達の思い  
も考える時、感謝の気持ちでいっぱいになる。  
昔、映画解説者に、淀川長治さんという方がいらっやって、いつも  
ニコニコして優しくお話を聞かせるのを覚えている。淀川さんの名ゼリフ「また  
お会いしましょう、さよなら、さよなら、さよなら」がとても懐かしい。  
また、水野晴夫さんの「いやー、映画って本当にいいですね。」も  
私には懐かしく思われる。よい映画をたくさん観たい秋だ。

＝ 最後までお読みいただき、ありがとうございます ＝